

発刊にあたって

我が国における既製コンクリート杭は、明治30年代の振動詰め成形によるRC杭の製造を初めとして、昭和9年の遠心力成形によるRC杭の開発、戦後のPC杭・PHC杭・SC杭等、種々の改良・開発を重ね、今日では土木・建築構造物の建設に欠くことのできない主要資材として極めて重要な役割を担っております。

既製コンクリート杭は、工場において徹底した品質管理のもとに製造され、確実でかつ安全な杭基礎の材料として需要家各位の御期待に応えられるものと確信しておりますが、近年、構造物の大型化、軟弱地盤上への建設や低公害工法での施工など、基礎に対しては厳しい条件での使用が増大しています。これに伴い、基礎杭も大径化、長尺化の要請や新たな工法開発など、より高度な設計・施工技術が求められるようになっております。

また、耐震設計偽装事件など建設業界の相次ぐ不祥事により平成19年6月に施行された建築基準法の大幅改訂等、業界を取り巻く環境も大きく変化しております。

(社)コンクリートパイル建設技術協会は、このような社会的要請の多様化、高度化に的確に対応しつつ、我が国の土木・建築構造物の安全性向上等に資するため、コンクリートパイルの設計・施工技術の進歩改善に関する調査・研究その他必要な行動を通じて、関連技術の向上を図り、もって我が国の産業および、国民生活の向上に寄与することを目的として、昭和63年12月に国土交通大臣（建設大臣）より、設立許可を受けたものであります。

このような目的の基に、当協会の事業の一環として「既製コンクリート杭—基礎構造設計マニュアル—（建築編）」の第一版を平成4年度に刊行いたしました。このたび、改正建築基準法や国土交通省告示1113号の改正及び大径CPRC杭など、既製コンクリート杭に関する最近の動向を踏まえて第四版として改訂いたしました。

設計に携わる方々が本書を有効に活用され、既製コンクリート杭に関する御理解が一層深まることを期待しております。

平成21年5月

社団法人 コンクリートパイル建設技術協会
会長 松原 範 幸